

KBC杯高校ハンド

ハンドボールの第15回KBC学園杯争奪・第49回県高校

春季選手権大会は16日、東風平体育館で決勝までを行い、男子の浦添商は延長戦の末に那覇西を35-33で、女子是那覇西が21-18でコザを破って

優勝した。

【男子】

▽3位決定戦

北中城 24-20 那覇国

▽決勝

浦添商 35 (14-9 / 13-18 / 8-6) 33 那覇西

【女子】

▽3位決定戦

前原 28-12 首里

▽決勝

那覇西 21 (13-5 / 8-13) 18 コザ

男子

浦添商

女子

那覇西V

ハイライト

男子の浦添商は延長戦の末、35-33で粘る那覇西に競り勝った。

前半は持ち味の一線ディフェンスと練習で鍛えた1対1で速攻の流れをつくり得点を重ねた。チーム最多16得点でエースの新垣瑛太郎は「九州大会で学んだ素早いカバーができるディフェンスを徹底した」と、チームの堅守を喜んだ。

前半は14-9とリードしたものの、後半は相手のマンツーマンディフェンスに苦戦。余裕がなくなったチームはシュートやパスでミスが目立ち、速攻を食らうなど追い詰められ、27-27の同点に持ち込まれた。

スタミナ勝負になる延長戦はシーズンゲームとなったが、九州大会で課題だった体面を強化しようと取り組んだ走り込みが生きた。主将の新里秀斗は「相手よりも足を動かすことができていた」といい、要所で7分スローを決めるなどして優勝をつかんだ。

相手エースの動きを封じた左サイドの渡辺周は「体を寄せるタイミングや利き手を自由にさせない守備が良かった」と笑顔。

右サイドの吉野結輝は「強みの1対1を抜いてシュートを決められたので良かった」と満足げな笑顔を見せた。(國吉楓乃)

浦添商 スタミナ強化延長制す



男子決勝 浦添商-那覇西 浦添商の新垣瑛太郎が高い打点からシュートを放つ(東風平体育館 國吉楓乃撮影)



女子決勝 那覇西-コザ 那覇西の金城心絆がサイドからシュートを放つ

那覇西 守備立て直し競り勝つ

守備を立て直した那覇西が頂点に立った。

チームは前半、9ラインの内側に相手選手を入れない一線ディフェンスを展開した。「相手のクロスアタックや次の動き出しを予想して対応できた」と主将の我那覇護子。堅守速攻で流れをつくると、ポストの比嘉夏希や点取り屋のポジション「左45」の前田杏樹らが得点を重ねて13-5の大差で折り返した。

しかし後半は相手のロングシュートや、ボールを持つ選手を特定しづらくする手渡しパスなどに苦しんで連続失点。タイムアウトでは神谷綱史監督が「もう一度前半の動きを思い出そう」と立て直しを図った。

すると「自分がおとりになって仲間にパスを回した」と話す前田のアシストなどで再び流れを呼び戻し21

-18でコザに勝利した。思ふようなプレーができなかったと涙を流した比嘉は「目標だった10点差をつけて勝利できず、とても悔しい。県総体に向けてチームの課題である後半の集中力を上げていきたい」と誓った。



女子の部で優勝した那覇西



男子の部で優勝した浦添商